

議案第五十八号

港区立郷土歴史館特別展示室の観覧料について

令和六年八月二十六日

港区教育委員会

令和6年8月26日
教育委員会議案資料 No. 1

港区立郷土歴史館特別展示室の観覧料について

審議内容

港区立郷土歴史館特別展示室で開催する特別展「激動する幕末維新の港区」の観覧料について、港区立郷土歴史館条例第六条別表の規定に基づき定めます。

1 特別展名称等

(1) 名称

「激動する幕末維新の港区」

(2) 開催期間

令和6年10月19日（土）から令和6年12月15日（日）まで

(3) 内容

嘉永6年（1853）年、米国のペリー艦隊が浦賀に来航し、江戸幕府へ開国を要求し、幕府は翌年に米国と和親条約を結び、日本は開国の道を歩み始めます。開国に端を発した諸問題により幕府は急速に力を衰えさせ、日本は明治維新を迎えました。

幕末の港区域は、当時の日本を揺るがした大事件の舞台となった重要な地の一つです。本展では、ペリー来航や品川台場築造という開国と国防の問題、薩摩藩邸焼き討ち事件と戊申戦争、そして明治維新へと続いていく一連の動向を取り上げます。港区域に止まらない日本の歴史に大きく関わる事件を通じて、歴史文化への理解を深めます。

2 観覧料

特別展のみ観覧する場合 ：大人 400円 小中高校生 200円

常設展と同時に購入した場合：大人 600円 小中高校生 200円

※ 区内在住、在学の小中高校生、区内在住65歳以上の方、障害者の方及びその介助者の観覧料は免除となります。また、学齢未満は無料となります。

※ 団体料金は、港区立郷土歴史館条例別表の規定により、10分の8となります。

参 考

●観覧料一覧

	大人		小中高校生	
	一般	団体	一般	団体
常設展	300円	240円	100円	80円
特別展	400円	320円	200円	160円
常設展と特別展を同時に購入した場合のセット券	600円	480円	200円	160円

●特別展の経費と観覧料について

費 目	金 額
展示造作費	1,300,000円
印刷費・広告費	1,100,000円
アテンダント人件費	300,000円
清掃費・光熱水費	132,900円
合計 (A)	2,832,900円
1日当たり予定利用者数 (B)	100人
開催日数 (C)	57日
延べ予定利用者数 (B) × (C) = (D)	5,700人
(A) ÷ (D)	497円

※ 特別展の観覧料については、算出した一人当たりの額に百円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた額としています。

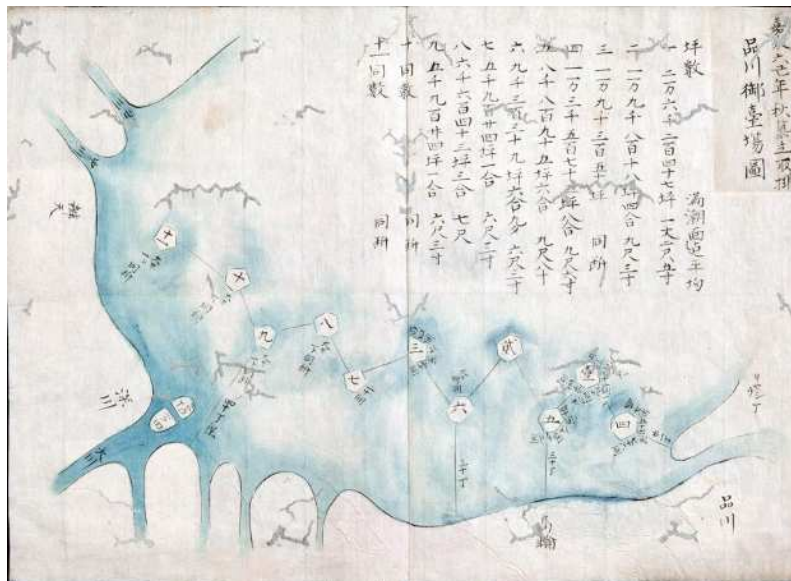


サスケハナ号模型 世田谷区立郷土資料館蔵

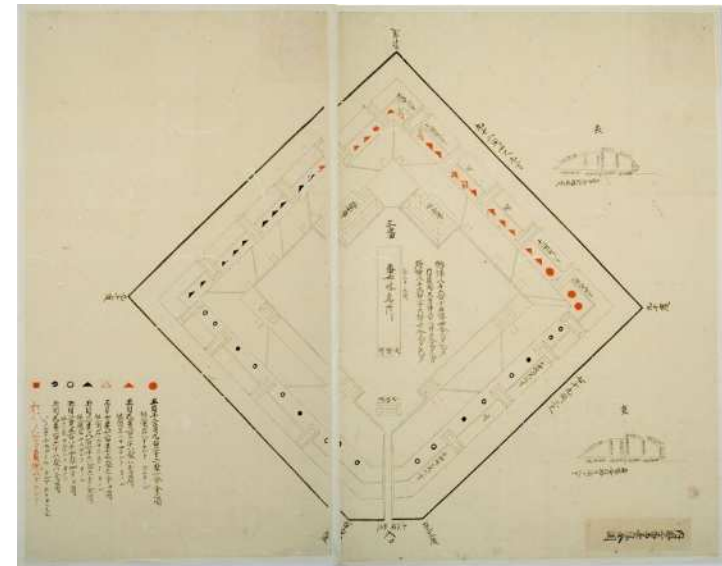
第1章 開国と江戸の防衛

嘉永6(1853)年、マシュー・ペリー率いるアメリカ東インド艦隊が浦賀沖に来航しました。それまでの日本は江戸幕府の下、泰平の世を謳歌していましたが、ペリーの来航によって、以後、日本は動乱の時代を迎えることとなります。

ペリー来航の結果、日米和親条約が締結されることとなり、日本は開国しました。一方で幕府は欧米列強の強大な軍事力を目の当たりにし、国防上の強い危機感を持つようになります。そして、幕府の最重要拠点である江戸を防衛するため、品川台場が築造されることとなりました。



「嘉永六丑年秋築立取掛品川御台場図」 当館蔵



「内海壱番式番御台場全図」 当館蔵



「安政五年三月三日水府ノ脱士等芝愛宕ノ山上ヘ集会ニ及ビ
旧主ノ鬱憤ヲ散ゼン為大老彦根侯ヲ撃殺ト雪中ニ密計ヲ評定シ余波ノ宴ヲ催ス図」
当館蔵

第2章 桜田門外の変

安政5(1858)年に幕府は日米修好通商条約を締結した後、オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも同様の条約を締結しました。

これらの条約締結は朝廷に無許可で行われたため多くの反発を呼び、次期将軍の擁立をめぐる政争も絡み、幕府の大老・井伊直弼が強く非難されます。対する幕府は直弼が安政の大獄を主導し、反対派を弾圧するもかえって大きな反発を生み、安政7年3月3日に直弼は水戸浪士たちによって江戸の桜田門外で暗殺されました。この桜田門外の変によって、幕府権威は大きく失墜することとなりました。



「桜田門外の変絵巻」 世田谷区立郷土資料館蔵

第3章 東禅寺事件 —英国公使館を襲う攘夷の嵐—

文久元(1861)年5月28日夜、当時イギリス公使館だった東禅寺が攘夷派の水戸浪士たちに襲撃されました。江戸幕府と修好通商条約を締結したイギリスは、安政6(1859)年6月から東禅寺を総領事館(後に公使館)としていたのです。この襲撃に対して、警備担当の幕臣(外国御用出役)や西尾藩士、大和郡山藩士は奮闘し、襲撃者を撃退します。事件の背景には、幕府の開国路線に反対し、西洋人を排斥しようという攘夷運動の高まりがありました。なお、翌年にもイギリス公使館(東禅寺)は襲撃を受けており、当時の攘夷運動の激しさが窺えます。



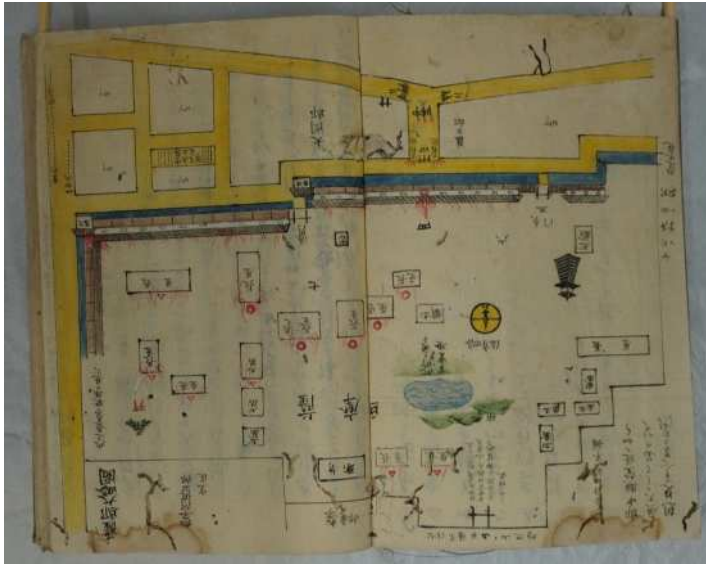
東禅寺事件につきイギリス政府から授与された銀製メダル
当館蔵



「外国書願留」 当館蔵



「善福寺出張中日記」 当館蔵



「東走記事 草稿 上」 個人蔵

第4章 薩摩藩邸焼き討ち事件

慶応3(1867)年、庄内藩酒井家を中心とする旧江戸幕府方の兵が、芝の薩摩藩島津家中屋敷と三田の佐土原藩島津家上屋敷を攻撃しました。同年10月の大政奉還により、武力討幕派がその口実を失う中、薩摩藩は挑発のため、多数の浪人に江戸市中で乱暴狼藉を働かせます。一昨夜には庄内藩屯所への発砲事件も起こり、これを薩摩藩の仕業と判断した旧幕府は攻撃を決断し、成功させました。この報が江戸から入ると大坂城の旧幕府軍は激昂し、開戦を望まない元将軍・徳川慶喜もこれを抑止できず、時局は戊辰戦争へと向かっていきました。



「近世史略 薩州屋敷焼撃之図」 早稲田大学図書館蔵



西郷隆盛所用の硯 致道博物館蔵



官軍兵士軍服 当館蔵

第5章 戊辰戦争から明治維新へ

政局が混沌とする中、慶応3(1867)年10月の大政奉還を経て、12月の「王政復古の大号令」により江戸幕府が消滅、明治新政府が成立しました。上方が緊迫する一方、江戸での薩摩藩邸焼き討ち事件を引き金に、翌年正月3日に鳥羽・伏見の戦いが勃発、戊辰戦争が開戦します。

戊辰戦争は、箱館で新政府軍が勝利する明治2(1869)年5月まで続き、この間に江戸も状況が切迫、江戸無血開城や上野戦争などの大事件が起こりました。上野戦争後に新政府が江戸を掌握すると、東京への改称や明治天皇の東幸など、次の時代への歩調が強まっていきました。



官軍兵士シャツ 当館蔵



「勝海舟書画卷」 当館蔵